

鳥取砂丘ビジターセンター 鳥取砂丘の楽しみ方

一見、鳥取砂丘は、砂が一面に広がっているだけのように見えます。年間の降水量は 200 センチほどの土地ですが、驚くほど多くの生物の命を支えています。強風や吹き飛ばす砂、少ない淡水、激しい温度変化（夏になると、表面温度は 50℃を超える場合も）は、生き物にとって過酷な自然環境ですが、砂に染み込む雨が植生を潤し、その結果、昆虫だけでなく、ウサギ、キツネ、シカ、イノシシなどの動物たちも支えるのです。

鳥取砂丘を歩くときは、花が咲いた植物や昆虫の巣、この土地を棲家にする動物たちの存在の証となる足跡に注意しましょう。ここで見られる植物や昆虫で、絶滅危惧種として日本や鳥取県のレッドリストに挙げられているものは少なくありません。生き物や生息地は大切に、歩くときも注意を払ってください。

4 月中旬のコウボウムギ（カヤツリグサ科）に続いて、アスターやグンバイヒルガオなどが、春の到来を告げる植物です。6 月はハマボウフウやスナキビソウに加えて、シバが伸び始め、7 月と 8 月にはハマグルマやハマゴウ、コウボウムギ以外のカヤツリグサ科の植物も花を咲かせます。9 月にヒナギクとウンランが開花すると花のシーズンは終わりを告げます。砂の動きが少なく、砂地の固定化が進む場所には、ハインズやクロマツが見られます。

常に地形が変化するので、いつでも身を隠せる場所がほとんどありませんが、昆虫や動物は、独自の方法でこの海岸の環境に適応してきました。アリジゴク（antlion）、コモリグモ（wolf spider）、ハンミョウ（tiger beetle）、ジガバチ（sand wasp）など、ここで見つかる昆虫の名前を見れば、砂丘で生きていくためには粘り強さが必要とされることが分かるのではないのでしょうか。

アリジゴクが獲物を獲る戦略は、巣穴まで続くすり鉢状のスロープ作りにあります。いったん獲物が落ちてくると、逃げられないように砂で蓋をします。一方、コモリグモは下に掘った巣をクモ糸で補強し、さらに、穴の外には仕掛け糸を張り、餌が近くにいと分かるような仕組みを作ります。ハンミョウは、鳥取砂丘に 2 種類います。どちらも迷彩服に似た姿をしており、砂地に縦方向の穴を掘って巣をつくります。6 月下旬から 9 月にかけて、巣が見つかることもあります。巣穴の入口を搜してみてください——穴は小さく 1～3 ミリほどしか幅はありません。成虫は長さがそれぞれ 1 センチと 1.5 センチです。しかし、残念ながら、大きい方のハンミョウは、ここ鳥取砂丘だけでなく日本の各地の棲息地でも、絶滅に瀕しています。とはいえ、この虫は、

近づかれるといったん数メートルは逃げるものの、必ず途中で立ち止まるため、見つけやすく、写真にもおさめやすいのが特徴です。この動作がまるで道を教えているように見えることから、日本では別名「ミチオシエ」とも呼ばれています。

もっと活動的なアクティビティは、サンドボードやパラグライダー、ファットバイクツーリング、ヨガ、SUP ヨガ、セグウェイライドといったグループで楽しめる砂丘のスポーツがいくつかあります。ビクターセンターに直接お越しいただくか、電話でお問い合わせいただければ、対応させていただきます。